

当面の電力需給見通しについて

平成 15 年 7 月 28 日
東京電力株式会社

1. 原子力プラントの状況

東京電力では原子力発電の安全と安心を確かなものにするため、原子炉を停止して綿密な点検・補修を行っています。主な原子力プラントの状況は以下の通りです。

【発電開始したもの】

- ・柏崎刈羽 6 号機 (135.6 万 kW) : 5 月 9 日
- ・ " 7 号機 (135.6 万 kW) : 6 月 20 日
- ・福島第一 6 号機 (110 万 kW) : 7 月 13 日
- ・柏崎刈羽 4 号機 (110 万 kW) : 7 月 25 日

【格納容器漏えい率検査ならびに起動前試験が全て終了しているもの】

- ・福島第一 3 号機 (78.4 万 kW) : 6 月 12 日原子炉格納容器漏えい率検査完了
- ・福島第二 1 号機 (110 万 kW) : 6 月 27 日 "
- ・福島第一 5 号機 (78.4 万 kW) : 7 月 4 日 "

(福島第二 3 号機 (110 万 kW) については 7 月 25 日に原子炉格納容器漏えい率検査が完了。)

2. 需給状況と見通し

既に運転中の 4 基以外の原子力 13 基の停止が続き、梅雨明け以降に猛暑となった場合は、6,450 万 kW の需要予測に対して供給力が不足する見通しです。(300 万 kW 程度)

そのような場合には追加供給力(約 300 万 kW)を最大限に活用するほか、需給調整契約による需要の抑制(約 140 万 kW)等によって需給は何とかバランスする見通しとなります。しかし、設備トラブル等に対応する予備的な供給力の確保¹(300 万 kW 程度)が必要なため、地元のご理解を得て、更に 3 ~ 4 基程度の運転再開を目指します。

1 追加供給力対策には、不安定な要素が多く(試運転電力は補修や点検のため安定的に期待できない可能性があります)さらに発電設備の運転停止リスク、気温上昇による需要急増のリスクを考慮すると、300 万 kW 程度の予備的な供給力を保有したいところです。

各月の需給見通し (停止中の原子力プラント 13 基の停止が続くと仮定した場合)

【通常時】(通常の気象条件の場合) (万 kW)

	7 月	8 月
需要	6,100	6,100
供給力(2)	6,180 ^(3)	6,160 ^(3)
予備力	80	60

【高需要時】(厳しい気象条件の場合) (万 kW)

	7 月	8 月
需要	6,450	6,450
供給力(2)	6,180 ^(3)	6,160 ^(3)
予備力	270	290

3: 7 月は 7/28 の週の平均、8 月は 8/4 からの 4 週平均

3. 供給力および需要面の対策

これまでに見通しのついた主なもの(左表の供給力(2)に含めてあります)

長期計画停止火力再開: 夏季約 220 万 kW

発電所	号機	供給力	運転再開日
横須賀	8 号	35 万 kW	H14/11/27
鹿島共火	2 号	35 万 kW	H14/12/3
横須賀	7 号	35 万 kW	H14/12/27
川崎	5 号	17.5 万 kW	H15/2/4
横須賀	6 号	35 万 kW	H15/2/21
横須賀	5 号	35 万 kW	H15/5/29
横須賀	2 号	26.5 万 kW	H15/6/26

停止時期の繰り延べ: 約 10 万 kW

発電所	号機	供給力	時期延期
君津共火	2 号	12.5 万 kW	6 月 ~ 10 月 ~

夏季対策として合計約 550 万 kW を確保。

他社からの応援融通計画受電: 夏季約 165 万 kW

受電時期	送電会社	受電電力	備考
4 月 ~	北海道	30 万 kW	
	北陸・関西・九州	35 万 kW	うち 5 万 kW は関西の水力機の 50Hz 運転
6 月 16 日 ~	中部	9 万 kW	電発佐久間水力機の 50Hz 運転
6 月 23 日 ~	北海道	30 万 kW	
	関西	42 万 kW	うち 2 万 kW は水力機の 50Hz 運転
	九州	20 万 kW	

その他: 夏季約 150 万 kW

- ・新設火力発電所の運転開始時期繰り上げ(品川 1 3 軸、富津 3 2 軸、各 38 万 kW)
- ・自社火力補修時期調整(7 月: 10 万 kW、8 月: 70 万 kW)

追加供給力対策(左表の供給力(2)に含まれていません) (万 kW)

	7 月 ^(3)	8 月 ^(3)	備考
試運転電力	160	110	常陸那珂 1 号(100 万 kW)、品川 1 3 軸・富津 3 1 軸(各 38 万 kW)
自家発電余剰の購入	50	50	JR 東日本様等。
火力の増出力運転	70	70	需給逼迫時には自社に加え他社にも増出力を依頼
その他	30	30	
合計	310	260	3: 7 月は 7/28 の週の平均、8 月は 8/4 からの 4 週平均

需要対策 (万 kW)

随時調整契約実効値(推定)	140	140	5 月当初の 80 万 kW から、60 万 kW の増加。
---------------	-----	-----	--------------------------------

さまざまなリスクを考慮し、追加供給力対策の確実性を高めるとともに、すでにお客さまにご協力いただいている需要面の対策につきまして、引き続きお願いして参ります。

- ・需給調整契約の確保.....計画調整: 約 140 万 kW、随時調整: 約 140 万 kW のご協力をいただける見込みであります。

- ・さらなる節電のお願い...高需要が予想される夏の期間、テレビ・ラジオ・インターネット・テレホンサービスを使って「でんき予報」を実施し、広く節電をお願いしております。(6/23 ~ 9/5: 予定)

以上